



Sun Enterprise™ 10000 DR エラーメッセージ

Sun Microsystems, Inc.
901 San Antonio Road
Palo Alto, CA 94303-4900
U.S.A.650-960-1300

Part No. 806-6962-10
Revision A, 2001 年 2 月

Copyright 2001 Sun Microsystems, Inc., 901 San Antonio Road, Palo Alto, CA 94303-4900 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョーベイマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Enterprise, OpenBoot は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サン・ロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

Java およびその他の Java を含む商標は、米国 Sun Microsystems 社の商標であり、同社の Java ブランドの技術を使用した製品を指します。

OPENLOOK, OpenBoot, JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

Netscape, Navigator は、米国 Netscape Communications Corporation の商標です。Netscape Communicator については、以下をご覧ください。Copyright 1995 Netscape Communications Corporation. All rights reserved.

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典： Sun Enterprise 10000 DR Error Messages
Part No: 806-5229-10
Revision A



Sun Enterprise 10000 SSP の権利の帰属:

本ソフトウェアの著作権は、カリフォルニア大学、米国サン・マイクロシステムズ、そのほか、関係する個人または組織が所有します。個別ファイルに権利の放棄が明示されていない限り、本ソフトウェアに関係するあらゆるファイルには、下記条件が適用されます。

作者は、既存の著作権告知文があらゆるコピーに留められること、また告知文がそのまま頒布版に含まれることを条件に、いかなる目的でも本ソフトウェアおよび関連文書を使用、複製、変更、修正、頒布、ライセンスすることを許可します。この条件を満たす限り、使用にあたり、書面による合意、ライセンスの付与、使用料の支払いは必要ありません。本ソフトウェアに加えられた修正部分の著作権は、その適用を受ける各ファイルの先頭ページに新しい条件を明記する限り、その作者が所有するものとし、ここに規定されているライセンス条件に従う必要はありません。

作者が次に記す損害の可能性について事前の通知を受けていたとしても、作者および頒布元は、本ソフトウェア、その関連文書、またその派生物を使用することによって生じた直接、間接、特別、付随、結果損害についていかなる個人または組織にも責任を負いません。

作者および頒布元は、商品性、特定の目的への適合性、侵害行為がないことの黙示の保証を含めて、いかなる保証も行いません。本ソフトウェアは「現状のままのもの」として提供されており、作者および頒布元は、保守、サポート、アップデート、機能強化、修正を提供する義務を負いません。

米国政府関連の方は以下をお読みください。 Use, duplication, or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions of FAR 52.227-14(g)(2)(6/87) and FAR 52.227-19(6/87), or DFAR 252.227-7015(b)(6/95) and DFAR 227.7202-3(a).

本ソフトウェア、scotty は、TCP/IP ネットワークに関する情報を取得するための、いくつかの特殊なコマンドからなる、簡単な tcl インタプリタです。 Copyright (c) 1993, 1994, 1995, J. Schoenwaelder, TU Braunschweig, Germany, Institute for Operating Systems and Computer Networks. この著作権告知文があらゆるコピーに付記されることを条件に、いかなる目的でも、無料で本ソフトウェアおよびその関連文書を使用、複製、修正、頒布することを許可します。 Braunschweig 大学は、本ソフトウェアの目的適合性についていかなる表明もしません。本ソフトウェアは、黙示および明示的な保証無しに「現状のまま」で提供されます。

目次

はじめに	ix
対象読者	ix
マニュアルの構成	ix
UNIX コマンドの使い方	x
書体と記号について	x
シェルプロンプト	xi
関連マニュアル	xi
1. DR のエラーの概要	1
このマニュアルの表の利用法	1
オンライン検索	2
特別な表記規則	2
ドメインでの DR エラーメッセージ	2
2. DR のエラーメッセージ	5
DR デーモン起動エラー	5
記憶域割り当てエラーメッセージ	7
DR ドライバ障害	15
PSM エラーメッセージ	17
DR の一般的なドメイン障害	19

DR のドメインシステム調査エラーメッセージ 21

OpenBoot PROM エラーメッセージ 36

安全でないデバイス照会の障害 40

AP 関連のエラーメッセージ 42

表目次

表 2-1	DR デーモン起動エラーメッセージ	5
表 2-2	記憶域割り当てエラーメッセージ	7
表 2-3	DR ドライバ障害	15
表 2-4	PSM エラーメッセージ	17
表 2-5	DR の一般的なドメイン障害エラーメッセージ	19
表 2-6	DR のドメインシステム調査エラーメッセージ	21
表 2-7	OBP エラーメッセージ	36
表 2-8	安全でないデバイス照会エラーメッセージ	40
表 2-9	AP 関連のエラーメッセージ	42

はじめに

このマニュアルでは、Sun Enterprise™ 10000 ドメインにおいて発生する Dynamic Reconfiguration (DR) および InterDomain Networks (IDN) のエラーメッセージについて説明します。

対象読者

このマニュアルは、UNIX® システム (特に Solaris™ オペレーティング環境のシステム) についての十分な知識を持つ Sun Enterprise 10000 server のシステム管理者を対象にしています。もしそのような知識をお持ちでない場合は、まずこのシステムに付属している AnswerBook2™ の『Solaris User Collection - Japanese』および『Solaris System Administrator Collection - Japanese』をお読みください。

マニュアルの構成

このマニュアルは、以下の章で構成されています。

第 1 章では、DR のエラーメッセージの概要を説明します。

第 2 章では、ドメインで発生する DR のエラーメッセージについて説明します。

UNIX コマンドの使い方

このマニュアルには、基本的な UNIX コマンドの説明も、システムの停止や起動、デバイスの設定などの手順の説明も含まれていません。

これらの詳細は、以下のマニュアルを参照してください。

- Solaris ソフトウェア環境用の AnswerBook2 オンラインマニュアル
- このシステムに付属している他のソフトウェアマニュアル

書体と記号について

書体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	% su Password:
<i>AaBbCc123</i> またはゴシック	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。 rm ファイル名 と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『Sun Enterprise 10000 DR エラーメッセージ』
「 」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 2 章「DR のエラーメッセージ」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅をこえる場合に、継続を示します。	% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING`

シェルプロンプト

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	<i>machine_name%</i>
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#

関連マニュアル

分類	タイトル	Part No.
ユーザーマニュアル	Sun Enterprise 10000 SSP 3.4 ユーザー マニュアル	806-6763
	Sun Enterprise 10000 Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル	806-6765
リファレンスマニュアル	Sun Enterprise 10000 SSP 3.4 リファレ ンスマニュアル	806-6764
	Sun Enterprise 10000 Dynamic Reconfiguration リファレンスマニ ュアル	806-5033
ご使用の手引き	Solaris 8 1/01 Sun ハードウェアマ ニュアル (補足)	メディアキットに 付属する印刷マ ニュアル

第1章

DR のエラーの概要

この章では、ドメインにおいて発生する Dynamic Reconfiguration (DR) のエラーメッセージの概要について示します。

注 - このマニュアルに載っていないエラーメッセージに関しては、「Sun Enterprise 10000 SSP 3.4 Collection - Japanese」の『Sun Enterprise 10000 Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル』を参照してください。

このマニュアルの表の利用法

このマニュアルの表から特定のエラーメッセージを検索する前に、以下のヒントをよく読んでください。

- エラーメッセージ内の特定のテキスト文字列を使って検索する。
- 具体的な数値で検索しない。このマニュアルでは、数値は置換可能な変数として表記されている。
- 置換可能な文字列で検索しない。このマニュアルでは、*descriptive message*、*errno_description*、*device_name*、*target_path*、*mount_point*、*interface_name_instance*、*interface_name* および *partition_name* は、エラーメッセージ内の置換可能な文字列として表記されている。
- このマニュアルをハードコピーで読む場合は、それぞれの表はエラーまたは障害の種類ごとに分類されている。表の内容はアルファベットの降順に並べられている。

オンライン検索

AnswerBook2™ 環境の検索エンジン、またはブラウザの検索エンジンを使用して、エラーメッセージ中の特定の文字列を検索できます。検索文字列は、このマニュアルに示されている特別な表記規則を念頭において作成してください。すべての表を個々に検索する必要がある場合もあります。エラーの種類（つまり、エラーが発生したところ）がわかる場合は、2 ページの「ドメインでの DR エラーメッセージ」のハイパーテキストリンクを使用して検索を開始します。

特別な表記規則

このマニュアルの表には、エラーの種類によって変化する語や値の名前に適用される特別な表記規則があります。エラーメッセージでは、それらの名前が、斜体で総称で示されていることに注意してください。以下にこのマニュアルでよく使用されている総称を示します。

- ドメイン ID の値を示す *domain_ID*
- すべてのドメインの名前を示す *domain_name*
- Sun Enterprise™ 10000 プラットフォームの名前を示す *platform_name*
- プロセス ID (pid 番号) の値を示す *process_id*
- システムボードの番号 (1 ~ 15) を示す *system_board_number*
- 数値を示す *XX*

ドメインでの DR エラーメッセージ

このマニュアルでは、DR 操作の実行中に発生する可能性のあるエラーメッセージの一覧を示します。このリストには、より一般的なエラーメッセージである、Protocol Independent Module (PIM) 層のエラーは含まれません。

次のリンクのいずれかを使って検索を開始してください。

5 ページの「DR デーモン起動エラー」

7 ページの「記憶域割り当てエラーメッセージ」

15 ページの「DR ドライバ障害」

17 ページの「PSM エラーメッセージ」

- 19 ページの「DR の一般的なドメイン障害」
- 21 ページの「DR のドメインシステム調査エラーメッセージ」
- 36 ページの「OpenBoot PROM エラーメッセージ」
- 40 ページの「安全でないデバイス照会の障害」
- 42 ページの「AP 関連のエラーメッセージ」

第2章

DR のエラーメッセージ

DR エラーメッセージはすべて、次のいずれかまたは両方に送られます。

- SSP アプリケーション
- システムエラーログ

DR デーモン起動エラー

DR デーモン起動エラーの一覧を以下に示します。これらのメッセージはドメインコンソールウィンドウにだけ送信されます。

表 2-1 DR デーモン起動エラーメッセージ

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
Cannot create server handle	DR デーモンは RPC サーバーを起動できませんでした。このメッセージが表示されるのは、ドメイン上でネットワークサービスを適切に構成せずに DR デーモンを手動で実行する場合だけです。通常、ネットワークサービスは、SSP から着信した RPC に応答して DR デーモンを生成します。	ドメイン上で、 <code>inetd.conf</code> の DR デーモン用のエントリを修正します。
Cannot fork: <i>descriptive message</i>	DR デーモンは、RPC サーバーの実行元プロセスをフォークできませんでした。	説明型エラーメッセージは、 <code>erro_value</code> に対応し、DR デーモンが RPC サーバーをフォークできなかった理由を知るためのヒントを提供します。資源の限界とシステムの負荷をチェックして、このエラーを修正する方法を見つけます。

表 2-1 DR デーモン起動エラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
Permission denied	root 以外のユーザーが DR デーモンを実行しようとした。	システムを完全に調査したり、ドライバにアクセスしてボードの切断および接続を実行するために DR デーモンはすべてのルート権限を必要とするため、DR デーモンを実行できるのはスーパーユーザー (root) だけです。
Unable to register (300326, 4)	DR デーモンが、ドメイン内のネットワークサービスに適切に登録されないまま実行されました。最初の数字は DR デーモン用に登録される RPC 番号を表します。2 番目の数字は DR デーモンが使用する RPC バージョンを表します。	ドメイン上で、inetd.conf の DR デーモン用のエントリを修正します。
Unable to create (300326, 4) for netpath	DR デーモンが、ドメイン内のネットワークサービスに適切に登録されないまま実行されました。最初の数字は DR デーモン用に登録される RPC 番号を表します。2 番目の数字は DR デーモンが使用する RPC バージョンを表します。	ドメイン上で、inetd.conf の DR デーモン用のエントリを修正します。

記憶域割り当てエラーメッセージ

システムログおよび SSP アプリケーションに送信される記憶域割り当てエラーメッセージの一覧を以下に示します。この一覧に示す各エラーメッセージには、原因となる 2 種類のエラー (ENOMEM または EAGAIN) が存在しますが、ここではその一方だけについて説明します。すべての ENOMEM エラーの対処方法は、EAGAIN エラーの場合と同様です。

表 2-2 記憶域割り当てエラーメッセージ

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
DR Error: malloc failed (add notnet ap info) <i>errno_description</i>	システム情報の照会中に、要求された情報を返す構造体に対し、DR デーモンが十分な記憶域を割り当てるできませんでした。DR デーモンが資源の制限を検出した可能性があります。DR デーモンが記憶域を割り当てることのできない場合は、動作を続行することはできません。通常、 <i>errno_description</i> には ENOMEM または EAGAIN エラーが記述されます。	まず、 <code>ps(1)</code> コマンドを使ってデーモンのサイズを調べます。通常、デーモンは約 300 ~ 400 KB のメモリーを使用します。デーモンがこのメモリーサイズより大きい場合は、メモリーリークが発生することがあります。メモリーリークが発生した場合は、この問題を報告してください。ENOMEM エラーは、DR デーモンが回復不可能な状態にあることを意味します。EAGAIN エラーは、問題が一時的であることを意味します。操作を再度実行することで成功する場合もあれば、デーモンの停止および再起動が必要な場合もあります。

表 2-2 記憶域割り当てエラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
DR Error: malloc failed (alias_namelen) <i>errno_description</i>	システム情報の照会中に、要求された情報を返す構造体に対し、DR デーモンが十分な記憶域を割り当てることができませんでした。DR デーモンが資源の制限を検出した可能性があります。DR デーモンが記憶域を割り当てることができない場合は、動作を続行することはできません。通常、 <i>errno_description</i> には ENOMEM または EAGAIN エラーが記述されます。	まず、ps(1) コマンドを使ってデーモンのサイズを調べます。通常、デーモンは約 300 ~ 400 KB のメモリーを使用します。デーモンがこのメモリーサイズより大きい場合は、メモリーリークが発生することがあります。メモリーリークが発生した場合は、この問題を報告してください。ENOMEM エラーは、DR デーモンが回復不可能な状態にあることを意味します。EAGAIN エラーは、問題が一時的であることを意味します。操作を再度実行することで成功する場合もあれば、デーモンの停止および再起動が必要な場合もあります。
DR Error: malloc failed (AP ctrlr_t array) <i>errno_description</i>	システム情報の照会中に、要求された情報を返す構造体に対し、DR デーモンが十分な記憶域を割り当てることができませんでした。DR デーモンが資源の制限を検出した可能性があります。DR デーモンが記憶域を割り当てることができない場合は、動作を続行することはできません。通常、 <i>errno_description</i> には ENOMEM または EAGAIN エラーが記述されます。	まず、ps(1) コマンドを使ってデーモンのサイズを調べます。通常、デーモンは約 300 ~ 400 KB のメモリーを使用します。デーモンがこのメモリーサイズより大きい場合は、メモリーリークが発生することがあります。メモリーリークが発生した場合は、この問題を報告してください。ENOMEM エラーは、DR デーモンが回復不可能な状態にあることを意味します。EAGAIN エラーは、問題が一時的であることを意味します。操作を再度実行することで成功する場合もあれば、デーモンの停止および再起動が必要な場合もあります。
DR Error: malloc failed (ap_controller) <i>errno_description</i>	システム情報の照会中に、要求された情報を返す構造体に対し、DR デーモンが十分な記憶域を割り当てることができませんでした。DR デーモンが資源の制限を検出した可能性があります。DR デーモンが記憶域を割り当てることができない場合は、動作を続行することはできません。通常、 <i>errno_description</i> には ENOMEM または EAGAIN エラーが記述されます。	まず、ps(1) コマンドを使ってデーモンのサイズを調べます。通常、デーモンは約 300 ~ 400 KB のメモリーを使用します。デーモンがこのメモリーサイズより大きい場合は、メモリーリークが発生することがあります。メモリーリークが発生した場合は、この問題を報告してください。ENOMEM エラーは、DR デーモンが回復不可能な状態にあることを意味します。EAGAIN エラーは、問題が一時的であることを意味します。操作を再度実行することで成功する場合もあれば、デーモンの停止および再起動が必要な場合もあります。

表 2-2 記憶域割り当てエラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
DR Error: malloc failed (board_cpu_config_t) <i>errno_description</i>	システム情報の照会中に、要求された情報を返す構造体に対し、DR デーモンが十分な記憶域を割り当てることができませんでした。DR デーモンが資源の制限を検出した可能性があります。DR デーモンが記憶域を割り当てることのできない場合は、動作を続行することはできません。通常、 <i>errno_description</i> には ENOMEM または EAGAIN エラーが記述されます。	まず、 ps(1) コマンドを使ってデーモンのサイズを調べます。通常、デーモンは約 300 ~ 400 KB のメモリーを使用します。デーモンがこのメモリーサイズより大きい場合は、メモリーリークが発生することがあります。メモリーリークが発生した場合は、この問題を報告してください。ENOMEM エラーは、DR デーモンが回復不可能な状態にあることを意味します。EAGAIN エラーは、問題が一時的であることを意味します。操作を再度実行することで成功する場合もあれば、デーモンの停止および再起動が必要な場合もあります。
DR Error: malloc failed (board_mem_config_t) <i>errno_description</i>	システム情報の照会中に、要求された情報を返す構造体に対し、DR デーモンが十分な記憶域を割り当てることができませんでした。DR デーモンが資源の制限を検出した可能性があります。DR デーモンが記憶域を割り当てることのできない場合は、動作を続行することはできません。通常、 <i>errno_description</i> には ENOMEM または EAGAIN エラーが記述されます。	まず、 ps(1) コマンドを使ってデーモンのサイズを調べます。通常、デーモンは約 300 ~ 400 KB のメモリーを使用します。デーモンがこのメモリーサイズより大きい場合は、メモリーリークが発生することがあります。メモリーリークが発生した場合は、この問題を報告してください。ENOMEM エラーは、DR デーモンが回復不可能な状態にあることを意味します。EAGAIN エラーは、問題が一時的であることを意味します。操作を再度実行することで成功する場合もあれば、デーモンの停止および再起動が必要な場合もあります。
DR Error: malloc failed (board_mem_cost_t) <i>errno_description</i>	システム情報の照会中に、要求された情報を返す構造体に対し、DR デーモンが十分な記憶域を割り当てることができませんでした。DR デーモンが資源の制限を検出した可能性があります。DR デーモンが記憶域を割り当てることのできない場合は、動作を続行することはできません。通常、 <i>errno_description</i> には ENOMEM または EAGAIN エラーが記述されます。	まず、 ps(1) コマンドを使ってデーモンのサイズを調べます。通常、デーモンは約 300 ~ 400 KB のメモリーを使用します。デーモンがこのメモリーサイズより大きい場合は、メモリーリークが発生することがあります。メモリーリークが発生した場合は、この問題を報告してください。ENOMEM エラーは、DR デーモンが回復不可能な状態にあることを意味します。EAGAIN エラーは、問題が一時的であることを意味します。操作を再度実行することで成功する場合もあれば、デーモンの停止および再起動が必要な場合もあります。

表 2-2 記憶域割り当てエラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
DR Error: malloc failed (board_mem_drain_t) <i>errno_description</i>	システム情報の照会中に、要求された情報を返す構造体に対し、DR デーモンが十分な記憶域を割り当てることができませんでした。DR デーモンが資源の制限を検出した可能性があります。DR デーモンが記憶域を割り当てることのできない場合は、動作を続行することはできません。通常、 <i>errno_description</i> には ENOMEM または EAGAIN エラーが記述されます。	まず、 ps(1) コマンドを使ってデーモンのサイズを調べます。通常、デーモンは約 300 ~ 400 KB のメモリーを使用します。デーモンがこのメモリーサイズより大きい場合は、メモリーリークが発生することがあります。メモリーリークが発生した場合は、この問題を報告してください。ENOMEM エラーは、DR デーモンが回復不可能な状態にあることを意味します。EAGAIN エラーは、問題が一時的であることを意味します。操作を再度実行することで成功する場合もあれば、デーモンの停止および再起動が必要な場合もあります。
DR Error: malloc failed (dr_io) <i>errno_description</i>	システム情報の照会中に、要求された情報を返す構造体に対し、DR デーモンが十分な記憶域を割り当てることができませんでした。DR デーモンが資源の制限を検出した可能性があります。DR デーモンが記憶域を割り当てることのできない場合は、動作を続行することはできません。通常、 <i>errno_description</i> には ENOMEM または EAGAIN エラーが記述されます。	まず、 ps(1) コマンドを使ってデーモンのサイズを調べます。通常、デーモンは約 300 ~ 400 KB のメモリーを使用します。デーモンがこのメモリーサイズより大きい場合は、メモリーリークが発生することがあります。メモリーリークが発生した場合は、この問題を報告してください。ENOMEM エラーは、DR デーモンが回復不可能な状態にあることを意味します。EAGAIN エラーは、問題が一時的であることを意味します。操作を再度実行することで成功する場合もあれば、デーモンの停止および再起動が必要な場合もあります。
DR Error: malloc failed (leaf array) <i>errno_description</i>	システム情報の照会中に、要求された情報を返す構造体に対し、DR デーモンが十分な記憶域を割り当てることができませんでした。DR デーモンが資源の制限を検出した可能性があります。DR デーモンが記憶域を割り当てることのできない場合は、動作を続行することはできません。通常、 <i>errno_description</i> には ENOMEM または EAGAIN エラーが記述されます。	まず、 ps(1) コマンドを使ってデーモンのサイズを調べます。通常、デーモンは約 300 ~ 400 KB のメモリーを使用します。デーモンがこのメモリーサイズより大きい場合は、メモリーリークが発生することがあります。メモリーリークが発生した場合は、この問題を報告してください。ENOMEM エラーは、DR デーモンが回復不可能な状態にあることを意味します。EAGAIN エラーは、問題が一時的であることを意味します。操作を再度実行することで成功する場合もあれば、デーモンの停止および再起動が必要な場合もあります。

表 2-2 記憶域割り当てエラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
DR Error: malloc failed (leaf) <i>errno_description</i>	システム情報の照会中に、要求された情報を返す構造体に対し、DR デーモンが十分な記憶域を割り当てることができませんでした。DR デーモンが資源の制限を検出した可能性があります。DR デーモンが記憶域を割り当てることのできない場合は、動作を続行することはできません。通常、 <i>errno_description</i> には ENOMEM または EAGAIN エラーが記述されます。	まず、 ps(1) コマンドを使ってデーモンのサイズを調べます。通常、デーモンは約 300 ~ 400 KB のメモリーを使用します。デーモンがこのメモリーサイズより大きい場合は、メモリーリークが発生することがあります。メモリーリークが発生した場合は、この問題を報告してください。ENOMEM エラーは、DR デーモンが回復不可能な状態にあることを意味します。EAGAIN エラーは、問題が一時的であることを意味します。操作を再度実行することで成功する場合もあれば、デーモンの停止および再起動が必要な場合もあります。
DR Error: malloc failed (net_leaf_array) <i>errno_description</i>	システム情報の照会中に、要求された情報を返す構造体に対し、DR デーモンが十分な記憶域を割り当てることができませんでした。DR デーモンが資源の制限を検出した可能性があります。DR デーモンが記憶域を割り当てることのできない場合は、動作を続行することはできません。通常、 <i>errno_description</i> には ENOMEM または EAGAIN エラーが記述されます。	まず、 ps(1) コマンドを使ってデーモンのサイズを調べます。通常、デーモンは約 300 ~ 400 KB のメモリーを使用します。デーモンがこのメモリーサイズより大きい場合は、メモリーリークが発生することがあります。メモリーリークが発生した場合は、この問題を報告してください。ENOMEM エラーは、DR デーモンが回復不可能な状態にあることを意味します。EAGAIN エラーは、問題が一時的であることを意味します。操作を再度実行することで成功する場合もあれば、デーモンの停止および再起動が必要な場合もあります。
DR Error: malloc failed (sbus_cntrl_t) <i>errno_description</i>	システム情報の照会中に、要求された情報を返す構造体に対し、DR デーモンが十分な記憶域を割り当てることができませんでした。DR デーモンが資源の制限を検出した可能性があります。DR デーモンが記憶域を割り当てることのできない場合は、動作を続行することはできません。通常、 <i>errno_description</i> には ENOMEM または EAGAIN エラーが記述されます。	まず、 ps(1) コマンドを使ってデーモンのサイズを調べます。通常、デーモンは約 300 ~ 400 KB のメモリーを使用します。デーモンがこのメモリーサイズより大きい場合は、メモリーリークが発生することがあります。メモリーリークが発生した場合は、この問題を報告してください。ENOMEM エラーは、DR デーモンが回復不可能な状態にあることを意味します。EAGAIN エラーは、問題が一時的であることを意味します。操作を再度実行することで成功する場合もあれば、デーモンの停止および再起動が必要な場合もあります。

表 2-2 記憶域割り当てエラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
DR Error: malloc failed (sbus_config) <i>errno_description</i>	システム情報の照会中に、要求された情報を返す構造体に対し、DR デーモンが十分な記憶域を割り当てることができませんでした。DR デーモンが資源の制限を検出した可能性があります。DR デーモンが記憶域を割り当てることのできない場合は、動作を続行することはできません。通常、 <i>errno_description</i> には ENOMEM または EAGAIN エラーが記述されます。	まず、 ps(1) コマンドを使ってデーモンのサイズを調べます。通常、デーモンは約 300 ~ 400 KB のメモリーを使用します。デーモンがこのメモリーサイズより大きい場合は、メモリーリークが発生することがあります。メモリーリークが発生した場合は、この問題を報告してください。ENOMEM エラーは、DR デーモンが回復不可能な状態にあることを意味します。EAGAIN エラーは、問題が一時的であることを意味します。操作を再度実行することで成功する場合もあれば、デーモンの停止および再起動が必要な場合もあります。
DR Error: malloc failed (sbus_device_t) <i>errno_description</i>	システム情報の照会中に、要求された情報を返す構造体に対し、DR デーモンが十分な記憶域を割り当てることができませんでした。DR デーモンが資源の制限を検出した可能性があります。DR デーモンが記憶域を割り当てることのできない場合は、動作を続行することはできません。通常、 <i>errno_description</i> には ENOMEM または EAGAIN エラーが記述されます。	まず、 ps(1) コマンドを使ってデーモンのサイズを調べます。通常、デーモンは約 300 ~ 400 KB のメモリーを使用します。デーモンがこのメモリーサイズより大きい場合は、メモリーリークが発生することがあります。メモリーリークが発生した場合は、この問題を報告してください。ENOMEM エラーは、DR デーモンが回復不可能な状態にあることを意味します。EAGAIN エラーは、問題が一時的であることを意味します。操作を再度実行することで成功する場合もあれば、デーモンの停止および再起動が必要な場合もあります。
DR Error: malloc failed (sbus_usage_t) <i>errno_description</i>	システム情報の照会中に、要求された情報を返す構造体に対し、DR デーモンが十分な記憶域を割り当てることができませんでした。DR デーモンが資源の制限を検出した可能性があります。DR デーモンが記憶域を割り当てることのできない場合は、動作を続行することはできません。デーモンをいったん停止して、再起動する必要があります。通常、 <i>errno_description</i> には ENOMEM または EAGAIN エラーが記述されます。	まず、 ps(1) コマンドを使ってデーモンのサイズを調べます。通常、デーモンは約 300 ~ 400 KB のメモリーを使用します。デーモンがこのメモリーサイズより大きい場合は、メモリーリークが発生することがあります。メモリーリークが発生した場合は、この問題を報告してください。ENOMEM エラーは、DR デーモンが回復不可能な状態にあることを意味します。EAGAIN エラーは、問題が一時的であることを意味します。操作を再度実行することで成功する場合もあれば、デーモンの停止および再起動が必要な場合もあります。

表 2-2 記憶域割り当てエラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
DR Error: malloc failed (struct devnm) <i>errno_description</i>	システム情報の照会中に、要求された情報を返す構造体に対し、DR デーモンが十分な記憶域を割り当てるできませんでした。DR デーモンが資源の制限を検出した可能性があります。DR デーモンが記憶域を割り当てることのできない場合は、動作を続行することはできません。通常、 <i>errno_description</i> には ENOMEM または EAGAIN エラーが記述されます。	まず、 ps(1) コマンドを使ってデーモンのサイズを調べます。通常、デーモンは約 300 ~ 400 KB のメモリーを使用します。デーモンがこのメモリーサイズより大きい場合は、メモリーリークが発生することがあります。メモリーリークが発生した場合は、この問題を報告してください。ENOMEM エラーは、DR デーモンが回復不可能な状態にあることを意味します。EAGAIN エラーは、問題が一時的であることを意味します。操作を再度実行することで成功する場合もあれば、デーモンの停止および再起動が必要な場合もあります。
DR Error: malloc failed (swap name entries) <i>errno_description</i>	システム情報の照会中に、要求された情報を返す構造体に対し、DR デーモンが十分な記憶域を割り当てるできませんでした。DR デーモンが資源の制限を検出した可能性があります。DR デーモンが記憶域を割り当てることのできない場合は、動作を続行することはできません。通常、 <i>errno_description</i> には ENOMEM または EAGAIN エラーが記述されます。	まず、 ps(1) コマンドを使ってデーモンのサイズを調べます。通常、デーモンは約 300 ~ 400 KB のメモリーを使用します。デーモンがこのメモリーサイズより大きい場合は、メモリーリークが発生することがあります。メモリーリークが発生した場合は、この問題を報告してください。ENOMEM エラーは、DR デーモンが回復不可能な状態にあることを意味します。EAGAIN エラーは、問題が一時的であることを意味します。操作を再度実行することで成功する場合もあれば、デーモンの停止および再起動が必要な場合もあります。
DR Error: malloc failed (swaptbl) <i>errno_description</i>	システム情報の照会中に、要求された情報を返す構造体に対し、DR デーモンが十分な記憶域を割り当てるできませんでした。DR デーモンが資源の制限を検出した可能性があります。DR デーモンが記憶域を割り当てることのできない場合は、動作を続行することはできません。通常、 <i>errno_description</i> には ENOMEM または EAGAIN エラーが記述されます。	まず、 ps(1) コマンドを使ってデーモンのサイズを調べます。通常、デーモンは約 300 ~ 400 KB のメモリーを使用します。デーモンがこのメモリーサイズより大きい場合は、メモリーリークが発生することがあります。メモリーリークが発生した場合は、この問題を報告してください。ENOMEM エラーは、DR デーモンが回復不可能な状態にあることを意味します。EAGAIN エラーは、問題が一時的であることを意味します。操作を再度実行することで成功する場合もあれば、デーモンの停止および再起動が必要な場合もあります。

表 2-2 記憶域割り当てエラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
DR Error: malloc failed (unsafe_devs) <i>errno_description</i>	システム情報の照会中に、要求された情報を返す構造体に対し、DR デーモンが十分な記憶域を割り当てることができませんでした。DR デーモンが資源の制限を検出した可能性があります。DR デーモンが記憶域を割り当てることのできない場合は、動作を続行することはできません。通常、 <i>errno_description</i> には ENOMEM または EAGAIN エラーが記述されます。	まず、 ps(1) コマンドを使ってデーモンのサイズを調べます。通常、デーモンは約 300 ~ 400 KB のメモリーを使用します。デーモンがこのメモリーサイズより大きい場合は、メモリーリークが発生することがあります。メモリーリークが発生した場合は、この問題を報告してください。ENOMEM エラーは、DR デーモンが回復不可能な状態にあることを意味します。EAGAIN エラーは、問題が一時的であることを意味します。操作を再度実行することで成功する場合もあれば、デーモンの停止および再起動が必要な場合もあります。

DR ドライバ障害

システムログおよび SSP アプリケーションに送信される DR ドライバ障害のリストを以下に示します。一般に、何がシステムログに送信され、何が SSP に送信されるかについては、デーモンおよび PSM エラーの説明を参照してください。

注 - すべての DR ドライバ障害メッセージは、表に示す 3 つの推定される原因と関連があります。このため、どの障害メッセージの場合にも、対処方法は 1 つです。

表 2-3 DR ドライバ障害

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
DR: Error: initiate_attach: ioctl failed	ioctl() 障害 (つまり、DR デーモンが DR ドライバの使用時に検出した障害) は、次の異なる 3 つのレベルで発生します。	ioctl() 障害のコンテキスト (メッセージ内で、ioctl() の失敗部分の前にどの関数が実行されたか) は、エラーメッセージのテキストとともに、障害の対象を指し示します。
DR: Error: complete_attach: ioctl failed	最初のレベルは、DR デーモンと DR ドライバの対話が適切に行われない場合に、DR デーモン内でエラーが発生します。	エラー番号を使って ioctl(2) のマニュアルページの情報をチェックして、原因を識別します。該当するエラー番号に関する参照情報が
DR: Error: abort_attach: ioctl failed	DR ドライバが見つからない場合は、/devices/pseudo ディレクトリに DR ドライバが存在しないか、ファイルのアクセス権が正しく設定されていないことが考えられます。また、DR デーモンがメモリーの破壊または資源の制限を検出する場合があります。ioctl() 障害メッセージに続き、Daemon (errno	ioctl(2) のマニュアルページに存在しない場合は、 /usr/include/errno.h ヘッダ ファイルを使用することもできます。
DR: Error: get_cpu_info: ioctl failed	#error_number): error description の形式のメッセージが表示されます。	
DR: Error: get_mem_config: ioctl failed		

表 2-3 DR ドライバ障害 (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
DR: Error: get_mem_cost: ioctl failed	第 2 レベルは、DR ドライバのプラットフォーム非依存モジュール (PIM) 層内で発生します。ioctl() 障害は、使用中の資源、障害の発生したシステムボード上の I/O デバイス、または PIM とプラットフォーム固有モジュール (PSM) 層との間で不正な通信が行われたことを示します。ioctl 障害メッセージに続いて、PIM メッセージが、PIM (error #errornumber): <i>errno_description</i> の形式で表示されます。	上記を参照。
DR: Error: get_mem_drain: ioctl failed	第 3 レベルは、PSM 層内で発生します。ioctl() 障害は、使用中の資源、障害の発生したシステムボード上の I/O デバイス、メモリー切断障害、CPU 切断障害、または PSM ドライバの遭遇した内部障害を意味します。通常、エラーの説明には、障害の発生した特定の物理デバイス名、またはメモリーや CPU 切断障害の詳細な説明が含まれます。ioctl() 障害メッセージに続き、PSM メッセージが PSM (error #errornumber): <i>errno_description</i> の形式で表示されます。	
DR: Error: ioctl failed, error draining resources		
DR: Error: detach_board: UNCONFIGURE ioctl failed		
DR: Error: detach_board: DISCONNECT ioctl failed		
DR: Error: abort_detach: CANCEL ioctl failed	PSM 層で発生した障害の場合は、対応する <i>errno</i> 値は存在しません。PSM 障害メッセージはエラー番号を使用します。エラー番号に関する説明は、 <code>/usr/include/sys/sfdr.h</code> ヘッダファイルを参照してください。	
DR: Error: abort_detach: CONFIGURE ioctl failed		
DR: Error: get_dr_state: ioctl failed		
DR: Error: get_dr_status: ioctl failed		

PSM エラーメッセージ

システムログおよび SSP アプリケーションに送信される PSM エラーメッセージの一覧を以下に示します。

表 2-4 PSM エラーメッセージ

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
1 SFDR_ERR_INTERNAL	内部ドライバに問題が発見されました。	なし
2 SFDR_ERR_SUSPEND	デバイスの保存停止に失敗しました。	なし
3 SFDR_ERR_RESUME	保存停止したデバイスの復元再開に失敗しました。	なし
4 SFDR_ERR_UNSAFE	停止している安全ではないデバイスを参照したため、オペレーティングシステムの休止に失敗しました。	ドメイン内にある安全でないデバイスの入出力の使用法を確認し、安全でないデバイスを手動で停止します。
5 SFDR_ERR_UTHREAD	ユーザースレッドを停止できませんでした。	操作を再試行します。エラーが続く場合は、kill(1) コマンドを使ってプロセスの停止を試みます。
6 SFDR_ERR_RTTHREAD	リアルタイムスレッドを停止できませんでした。	操作を再試行します。エラーが続く場合は、kill(1) コマンドを使ってプロセスの停止を試みます。
7 SFDR_ERR_KTHREAD	カーネルスレッドを停止できませんでした。	操作を再試行します。エラーが続く場合は、kill(1) コマンドを使ってプロセスの停止を試みます。
8 SFDR_ERR_OSFAILURE	カーネルは、DR ドライバ用の DR 操作を適切に処理していません。	なし
9 SFDR_ERR_OUTSTANDING	以前の DR ドレイン操作に起因するエラーが DR ステータスコマンド経由で報告されていないため、ioctl() が失敗しました。	操作を再度実行します。
11 SFDR_ERR_CONFIG	現在のシステム構成では、DR 操作を実行できません。	/etc/system ファイルをチェックして、メモリー切断を可能にします。

表 2-4 PSM エラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
12 SFDR_ERR_NOMEM	メモリーが不足しています。	なし
13 SFDR_ERR_PROTO	プロトコル障害	なし
14 SFDR_ERR_BUSY	デバイスは使用中です。	デバイスの I/O 使用状況をチェックして、このエラーの原因 (たとえば、マウントされたファイルシステムまたは AP デバイスへの最後のパス) を判定します。可能であれば、手動でシステムを調整してこのエラーを訂正します (たとえば、ファイルシステムのマウント解除)。エラーの原因が明確でない場合は、購入先にお問い合わせください。
15 SFDR_ERR_NODEV	デバイスが存在しません。	なし
16 SFDR_ERR_INVALID	無効な引数と操作のいずれかまたは両方	なし
17 SFDR_ERR_STATE	無効なボード状態 (遷移)	なし
18 SFDR_ERR_PROBE	ボード用の OBP ノードのプロープに失敗しました。	なし
19 SFDR_ERR_DEPROBE	ボード用の OBP ノードのデプローブに失敗しました。	なし
20 SFDR_ERR_HW_INTERCONNECT	相互接続ハードウェアが失敗しました。	なし
21 SFDR_ERR_OFFLINE	CPU をオフラインにすることに失敗しました。	なし
22 SFDR_ERR_ONLINE	CPU をオンラインにすることに失敗しました。	なし
23 SFDR_ERR_CPUSTART	CPU の開始に失敗しました。	なし
24 SFDR_ERR_CPUSTOP	CPU の停止に失敗しました。	なし
25 SFDR_ERR JUGGLE_BOOTPROC	クロック信号 CPU の移動に失敗しました。	なし
26 SFDR_ERR_CANCEL	RELEASE 操作の取消しに失敗しました。	ドレイン操作の完了後に Abort Detach 操作を再実行します。

DR の一般的なドメイン障害

一般的な障害エラーメッセージの一覧を以下に示します。これらのメッセージは、システムログと SSP アプリケーションのいずれかまたは両方に送信されます。

表 2-5 DR の一般的なドメイン障害エラーメッセージ

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
DR Error: Cannot fork() process . . . <i>errno_description</i>	DR デーモンは、プロセスをフォークしてコマンドを実行することができませんでした。このエラーメッセージまたは障害の発生したコマンドに関するエラーメッセージに先立ち、「 running command 」形式のメッセージがシステムログに記録されます。	<i>errno_description</i> には、実行しようとしたコマンドを修正する上でのヒントが含まれています。また、該当するコマンドのマニュアルページをチェックします。マニュアルページには、発生したエラーに関する説明が含まれている場合があります。
DR Error: <i>command</i> has continued	DR デーモンが外部コマンドを実行中に、外部コマンドの 1 つが失敗または異常終了しました。DR 機能は外部コマンド (例、drvconf) を実行し、ソフトウェアサブシステムを構成します。	ドメインでプログラムを手動実行します。コマンドが再度失敗する場合は、そのコマンドのマニュアルページを参照してください。マニュアルページにエラーに関する説明が含まれている場合があります。
DR Error: <i>command</i> stopped by signal <i>signal_number</i>	DR デーモンが外部コマンドを実行中に、外部コマンドの 1 つが失敗または異常終了しました。DR 機能は外部コマンド (例、drvconf) を実行し、ソフトウェアサブシステムを構成します。	ドメインでプログラムを手動実行します。コマンドが再度失敗する場合は、そのコマンドのマニュアルページを参照してください。マニュアルページにエラーに関する説明が含まれている場合があります。
DR Error: <i>command</i> terminated due to signal <i>signal_number</i>	DR デーモンが外部コマンドを実行中に、外部コマンドの 1 つが失敗または異常終了しました。DR 機能は外部コマンド (例、drvconf) を実行し、ソフトウェアサブシステムを構成します。	ドメインでプログラムを手動実行します。コマンドが再度失敗する場合は、そのコマンドのマニュアルページを参照してください。マニュアルページにエラーに関する説明が含まれている場合があります。

表 2-5 DR の一般的なドメイン障害エラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
DR Error: <i>command</i> terminated due to signal <i>signal_number</i> . Core dumped.	DR デーモンが外部コマンドを実行中に、外部コマンドの 1 つが失敗または異常終了しました。DR 機能は外部コマンド (例、 <i>drvconf</i>) を実行し、ソフトウェアサブシステムを構成します。	ドメインでプログラムを手動実行します。コマンドが再度失敗する場合は、そのコマンドのマニュアルページを参照してください。マニュアルページにエラーに関する説明が含まれている場合があります。
DR Error: <i>dr_issue_ioctl</i> : failed closing driver . . . <i>errno_description</i>	DR デーモンによる DR ドライバのエントリポイントのクローズ中に障害が発生しました。この障害の詳細は、エラーメッセージを参照してください。	<i>close(2)</i> のマニュアルページおよび <i>errno_description</i> を参照して、このエラーの原因および解決方法を識別します。
Cannot exec command (<i>errno</i> = <i>errno_value</i>).	DR デーモンは、外部コマンドを実行できませんでした。この障害の詳細は、エラーメッセージを参照してください。	システムログをチェックして、失敗したコマンドを特定します。特定の <i>errno_value</i> の詳細は、 <i>exec(2)</i> のマニュアルページを参照してください。参照した情報を使ってエラーを解決します。
<i>dr_get_sysbrd_info</i> : NULL parameter	スロットからメモリーへのアドレスマッピングの照会中に、無効なポインタが DR デーモンに渡されました。原因は、RPC が不正な値を渡したか、または DR デーモンが無効なパラメータで自らを呼び出したかのいずれかです。	この問題に関する情報をシステムログからできる限り収集し、障害の原因を識別します。DR デーモンと SSP アプリケーションをいったん停止してから起動してみます。エラーが続く場合は、購入先にお問い合わせください。
<i>update_cpu_info</i> : bad board number	DR デーモン内で問題が発生し、不正な値で内部ルーチンが呼び出されました。	この問題に関する情報をシステムログからできる限り収集し、障害の原因を識別します。エラーが続く場合は、デーモンを停止し、再起動することが必要な場合があります。
WARNING: Failed to update board <i>board_number</i> 's modification time [non-fatal].	ボードの変更時間の更新に失敗しました。ボードの変更後 (たとえば、メモリーや CPU の追加) に OBP によるブローブまたはデブローブが実行され、OBP による他のプログラムに対する変更通知が可能になります。その後、変更時間が更新されます。	これは、重大なエラーではありません。

DR のドメインシステム調査エラーメッセージ

システム調査エラーメッセージの一覧を以下に示します。これらのメッセージは、システムログと SSP アプリケーションのいずれかまたは両方に送信されます。

表 2-6 DR のドメインシステム調査エラーメッセージ

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
Cannot open /etc/driver_aliases; dr_daemon may not operate correctly without driver alias mappings . . . <i>errno_description</i>	DR デーモンが、ドメイン内のデバイスの切断可能性および使用法について不正な決定をしました。これは、致命的なエラーではありません。	<i>errno_description</i> を参照して、エラーの原因を分析し、エラーの訂正を試みます。オープンしようとしたファイルへの不正なアクセス権または何らかの資源の制限を検出します。エラーを訂正した後に、DR デーモンを停止し、その後再起動して、ドライバエイリアスマッピングの読み取りを再度試みます。
Cannot open mnttab (<i>errno=errno_value</i>)	mnttab ファイルを開いてどのファイルシステムがマウントされたかを検査できない場合は、DR デーモンは切断可能性テストを通過させることはできません。テストが停止しない場合は、マウントされたファイルシステムをドメインから切断できます。	<i>errno_value</i> を使ってこのエラーの原因を分析し、エラーの訂正を試みます。DR デーモンが資源の制限を検出した可能性があります。その場合は、デーモンを停止してから再起動します。また、DR デーモンのサイズもチェックします。DR デーモンのサイズは 300 ~ 400 KB の範囲内になければなりません。範囲外の場合は、デーモンを停止してから再起動します。

表 2-6 DR のドメインシステム調査エラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
<p>Cannot open socket (errno=<i>errno_value</i>)</p> <p>このエラーメッセージは、システムログだけに送信されます。</p>	<p>DR デーモンは、ネットワークデバイスをオープンできませんでした。使用状況をテストするため、すべてのネットワークデバイスがオープンされます。</p>	<p><i>errno_value</i> を使ってこのエラーの原因を特定します。DR デーモンが資源の制限を検出した可能性があります。その場合は、デーモンを停止してから再起動します。また、DR デーモンのサイズもチェックします。DR デーモンのサイズは 300 ~ 400 KB の範囲内になければなりません。範囲外の場合は、デーモンを停止してから再起動します。ドメインでこのエラーが引き続き表示される場合、またメモリーリークの兆候が見られる場合は、エラーに関する情報をできる限り収集し、購入先にお問い合わせください。</p>
<p>get_cpu_bindings: can't access /proc filesystem [non-fatal].</p>	<p>/proc ファイルシステムを開くことができませんでした。DR デーモンがドメインを調査して、ボードの CPU 情報を判定する際に、/proc ファイルシステムを検査して、どの PID が (存在する場合) ボード上の CPU に結合されているかを判定します。結合プロセスは、ボードの切断可能性にマイナスの影響を与えます。プロセスが CPU に結合されている場合は、完全な切り離し操作は失敗します。</p>	<p>/proc ファイルシステムにアクセスできない理由をチェックします。ドメイン内でプロセスバインディングおよびプロセスセット管理プログラム、またはプロセス管理プログラムを使用して、ボードの CPU 情報を手動で判定できます。</p>
<p>get_mem_config: couldn't determine total system memory size; only 1 board counted [non-fatal].</p>	<p>DR デーモンによる総メモリー容量の計算時にレポートできたのは、選択されたボード上のメモリー容量だけでした。これは、<code>drshow board_number mem</code> コマンドによりレポートされたシステムメモリーフィールドの値が不正確であることを意味します。総メモリー容量を計算できない場合は、値が不正確であるために切り離し操作時のボード適性はマイナスの影響を受けます。このため、ドメインからボードを削除することによる影響も予測できません。</p>	<p>DR デーモンおよびドライバを停止してから再起動します。この問題に関する情報をシステムログからできる限り収集し、報告してください。時間の経過とともにメモリーリークが発生した可能性もあります。<code>ps(1)</code> コマンドを使って DR デーモンのサイズをチェックしてください。サイズは 300 ~ 400 KB の範囲内であるはずですが、DR デーモンのサイズがこの範囲内でない場合は、DR デーモンおよびドライバを停止してから再起動してください。</p>

表 2-6 DR のドメインシステム調査エラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
get_net_config_info: interface_name no address (errno= <i>errno_value</i>)	ifconfig(1M) コマンドを使って構成されたネットワークインタフェース情報の取得中に、DR デーモンが障害を検出しました。	<i>errno_value</i> を使ってこのエラーの原因を特定し、エラーを訂正します。
getmntent returned error	マウントポイントエントリを適切に検出できなかったために、getmntent(3c) システムコールが失敗しました。原因として、マウントされたファイルシステムがドメインから切断されたことが考えられます。	mnttab ファイルの破損の可能性が あります。ファイルが破損している 場合は修復します。また、DR デー モンが資源の制限を検出した可能性 があります。その場合は、デーモン を停止してから再起動します。DR デーモンのサイズもチェックしま す。DR デーモンのサイズは 300 ~ 400 KB の範囲内になければなりま せん。範囲外の場合は、デーモンを 停止してから再起動します。ドメイ ンでこのエラーが引き続き表示され る場合、またメモリーリークの兆候 が見られる場合は、エラーに関する 情報をできる限り収集し、購入先 にお問い合わせください。
Host addr for <i>interface_name</i> not found (h_errno= <i>errno_value</i>)	アクティブな各ネットワークデバイスのテストに必要なファイルが存在しないか、壊れています。ネットワークデバイスの検査の際、アクティブな各ネットワークデバイスが、ドメイン用の主ネットワークインタフェースであるかどうかの判定テストが行われます。どのアクティブネットワークデバイスがドメインの主ネットワークインタフェースであるかを判定できない場合は、DR デーモンは切り離し可能性テストを通過させません。	<i>errno_value</i> を使ってファイルが存在するかどうか、またはファイルが壊れているかどうかを判定し、必要に応じてエラーを訂正します。ファイルの名前は、 /etc/hostname. <i>interface_name</i> で <i>interface_name</i> にはエラーメッセージに表示されたインタフェース名が当てはまります。

表 2-6 DR のドメインシステム調査エラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
Host address field for <i>interface_name</i> is null!!	主インタフェース (<i>interface_name</i>) の IP アドレス が正しく設定されていません。ネットワークデバイスの検査の際、アクティブな各ネットワークデバイスが、ドメイン用の主ネットワークインタフェースであるかどうかの判定テストが行われます。どのアクティブネットワークデバイスがドメインの主ネットワークインタフェースであるかを判定できない場合は、DR デーモンは切り離し可能性テストを通過させません。	ドメインのネットワーク設定を再構成します。ネットワークデバイスを構成するために、ドメインの再起動が必要な場合もあります。
Host address for <i>interface_name</i> must be internet address.	アクティブな各ネットワークデバイスのテストに必要なファイルの値またはネットワークアドレスが正しくない可能性があります。ネットワークデバイスの検査の際、アクティブな各ネットワークデバイスが、ドメイン用の主ネットワークインタフェースであるかどうかの判定テストが行われます。どのアクティブネットワークデバイスがドメインの主ネットワークインタフェースであるかを判定できない場合は、DR デーモンは切り離し可能性テストを通過させません。	主ネットワークインタフェースのホスト名ファイルに、適切な形式 (つまり、 <i>xxx.xxx.xxx.xxx</i>) で IP アドレスが含まれていることを確認します。ファイル名は、 <i>/etc/hostname.interface_name</i> で <i>interface_name</i> にはエラーメッセージに表示されたインタフェース名が当てはまります。
I/O bus device tree not built.	このエラーメッセージは、libdevinfo API がシステムボード用のデバイスツリーの構築に失敗したことを示す DR Error: device tree not built エラーメッセージに関する追加情報として表示されません。	DR Error: device tree not built エラーメッセージを参照してください。

表 2-6 DR のドメインシステム調査エラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
minor_walk: failed to build net leaf.	このエラーメッセージは、libdevinfo API がシステムボード用のデバイスツリーの構築に失敗したことを示す DR Error: device tree not built エラーメッセージに関する追加情報として表示されません。このメッセージは、libdevinfo API が非ネットワーク用ノードのマイナーデバイスの検索を開始したことを示します。	DR Error: device tree not built エラーメッセージを参照してください。
minor_walk: failed to build non-net leaf.	このエラーメッセージは、device tree not built エラーメッセージに関する追加情報として表示され、libdevinfo API が非ネットワーク用ノードのマイナーデバイスの検索を開始したことを示します。	DR Error: I/O bus device tree not built エラーメッセージを参照してください。
Partition <i>partition_name</i> does not have parent.	デバイスツリーに親デバイス (パーティションが属するディスクなど) を持たないディスクパーティションが含まれるためにエラーが発生しました。	デバイスが不良であるか、または再起動が必要です。このエラーが引き続き表示される場合は、この問題に関する情報をシステムログからできる限り収集し、購入先にお問い合わせください。
Recursive symlink found ' <i>symbolic_link_name</i> '. Please remove it.	DR デーモンが /dev および /devices ディレクトリを探索中にシンボリックリンクを発見しました。その中に、再帰ループを形成するシンボリックリンクが存在します。DR デーモンがこれらのディレクトリのどれかにシンボリックリンクを発見すると、切り離し可能性テストを通過させません。	シンボリックリンクを削除して、テストを再度実行します。

表 2-6 DR のドメインシステム調査エラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
swapctl SC_GETNSWP failed (errno= <i>errno_value</i>)	swapctl(2) システムコールが失敗しました。このシステムコールは、スワップ空間として使用中のディスクパーティションの識別に使用されません。スワップパーティションの使用を識別できない場合は、DR デーモンは切断可能性テストを通過させません。	<i>errno_value</i> を使ってこのエラーの原因を分析します。swapctl(2) のマニュアルページおよび <i>errno_value</i> を使ってコマンドが失敗した原因を特定します。DR デーモンが資源の制限を検出した可能性があります。その場合は、デーモンを停止してから再起動します。また、DR デーモンのサイズもチェックします。DR デーモンのサイズは 300 ~ 400 KB の範囲内になければなりません。範囲外の場合は、デーモンを停止してから再起動します。ドメインでこのエラーが引き続き表示される場合、またメモリーリークの兆候が見られる場合は、エラーに関する情報をできる限り収集し、購入先にお問い合わせください。
Unable to find cwd <i>errno_value</i>	DR デーモンが、現在の作業用ディレクトリを保存できませんでした。デーモンは、/dev および /devices ディレクトリ内に移動して、デバイスドライバに対応する実際のパス名を作成します。	getcmd(3c) のマニュアルページおよび <i>errno_value</i> を参照して、このエラーの原因を特定し、エラーを訂正します。
Unable to find the cwd <i>errno_value</i>	DR デーモンが、ドライバのディレクトリ名を特定できませんでした。/dev および /devices ディレクトリ内に移動して、デバイスドライバに対応する実際のパス名を作成します。	getcmd(3c) のマニュアルページおよび <i>errno_value</i> を参照して、このエラーの原因を特定し、エラーを訂正します。

表 2-6 DR のドメインシステム調査エラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
Unable to get swap entries (errno= <i>errno_value</i>)	swapctl(2) システムコールが失敗しました。このシステムコールは、スワップ空間として使用中のディスクパーティションの識別に使用されま す。スワップパーティションの使用を識別できない場合は、DR デーモンは切断可能性テストを通過させません。	swapctl(2) のマニュアルページと <i>errno_value</i> を使ってこのエラーの原因を分析し、訂正を試みます。DR デーモンが資源の制限を検出した可能性があります。その場合は、デーモンを停止してから再起動します。また、DR デーモンのサイズもチェックします。DR デーモンのサイズは 300 ~ 400 KB の範囲内になければなりません。範囲外の場合は、デーモンを停止してから再起動します。このエラーが引き続き表示される場合、またメモリーリークの兆候が見られる場合は、エラーに関する情報をできる限り収集し、購入先にお問い合わせください。
Unable to lstat <i>devlink_file</i> <i>errno_value</i>	lstat(2) システムコールが <i>devlink_file</i> にアクセスした際に障害が発生しました。 <i>devlink</i> には /dev ディレクトリ内のシンボリックリンク名が当てはまります。	lstat(2) のマニュアルページと <i>errno_value</i> を使ってこのエラーの原因を分析します。DR デーモンが資源の制限を検出した可能性があります。その場合は、デーモンを停止してから再起動します。また、DR デーモンのサイズもチェックします。DR デーモンのサイズは 300 ~ 400 KB の範囲内になければなりません。範囲外の場合は、デーモンを停止してから再起動します。ドメインでこのエラーが引き続き表示される場合、またメモリーリークの兆候が見られる場合は、エラーに関する情報をできる限り収集し、購入先にお問い合わせください。

表 2-6 DR のドメインシステム調査エラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
Unable to open <i>hostname_file</i> (<i>errno=errno_value</i>)	アクティブな各ネットワークデバイスのテストに必要な情報を取得できません。ネットワークデバイスの検査の際、アクティブな各ネットワークデバイスが、ドメイン用の主ネットワークインタフェースであるかどうかの判定テストが行われます。どのアクティブネットワークデバイスがドメインの主ネットワークインタフェースであるかを判定できない場合は、DR デーモンは切断可能性テストを通過させません。	<i>open(2)</i> のマニュアルページおよび <i>errno_value</i> を参照して、このエラーの原因を分析し、エラーの訂正を試みます。不正なファイルのアクセス権または存在しないファイルを見つけます。 <i>hostname_file</i> 値は、 <i>/etc/hostname.ifname</i> という名前のファイルで構成されています。 <i>ifname</i> には、デバイス名 (<i>hme0</i> 、 <i>le0</i> など) が当てはまります。
Unable to read host name from <i>hostname_file</i>	アクティブな各ネットワークデバイスのテストに必要なファイルを読み取れません。ネットワークデバイスの検査の際、アクティブな各ネットワークデバイスが、ドメイン用の主ネットワークインタフェースであるかどうかの判定テストが行われます。どのアクティブネットワークデバイスがドメインの主ネットワークインタフェースであるかを判定できない場合は、DR デーモンは切断可能性テストを通過させません。	ファイルのアクセス権が適切であること、およびファイルが壊れていないことを確認します。
Unable to readlink <i>devlink_file</i> <i>errno_value</i>	<i>readlink(2)</i> システムコールが <i>devlink_file</i> にアクセスした際に障害が発生しました。 <i>devlink</i> には <i>/dev</i> ディレクトリ内のシンボリックリンク名が当てはまります。	<i>readlink(2)</i> のマニュアルページと <i>errno_value</i> を使ってこのエラーの原因を特定します。DR デーモンが資源の制限を検出した可能性があります。その場合は、デーモンを停止してから再起動します。また、DR デーモンのサイズもチェックします。DR デーモンのサイズは 300 ~ 400 KB の範囲内になければなりません。範囲外の場合は、デーモンを停止してから再起動します。ドメインでこのエラーが引き続き表示される場合、またメモリーリークの兆候が見られる場合は、エラーに関する情報をできる限り収集し、購入先にお問い合わせください。

表 2-6 DR のドメインシステム調査エラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
Unable to restore cwd <i>errno_value</i>	DR デーモンは、/dev または /devices ディレクトリへの移動後に、元のディレクトリに戻ることができませんでした。DR デーモンは、デバイスドライバと他のドライバとの関連を調べるために、/dev および /devices ディレクトリに移動します。	ドメインに関しては、このエラーは問題にはなりません。ただし、 <i>errno_value</i> を使用してエラーの原因を識別する必要があります。
Unable to set cwd <i>errno_value</i>	DR デーモンは、/dev および /devices ディレクトリに移動できませんでした。デーモンは、これらのディレクトリ内に移動して、デバイスドライバに対応する実際のパス名を作成します。	chdir(2) のマニュアルページおよび <i>errno_value</i> を参照して、このエラーの原因を特定してから、エラーを訂正します。
unknown node type	デバイスツリーが、不正な仕方で構築されました。いくつかの関数が、libdevinfo API を使ってシステムボードのデバイスツリーを作成し、/dev および /devices ディレクトリを検索します。ツリーは、構築後に rpc_info() 関数に渡されます。この関数は、ツリーの構築および検証を行った後、RPC から返すことのできる構造にツリーを変換します。	DR デーモンのサイズをチェックします。DR デーモンのサイズは 300 ~ 400 KB の範囲内になければなりません。範囲外の場合は、デーモンを停止してから再起動します。ドメインでこのエラーが引き続き表示される場合は、エラーに関する情報をできる限り収集し、購入先にお問い合わせください。
utssys failed (<i>errno_value</i>) for <i>mount_point</i>	utssys() システムコールが失敗しました。このシステムコールは、マウントされたパーティションの使用状況を識別するために使用されます。マウントされたパーティションの使用を識別できない場合は、DR デーモンは切断可能性テストを通過させません。	<i>errno_value</i> を使ってこのエラーの原因を分析し、訂正を試みます。DR デーモンが資源の制限を検出した可能性があります。その場合は、デーモンを停止してから再起動します。また、DR デーモンのサイズもチェックします。DR デーモンのサイズは 300 ~ 400 KB の範囲内になければなりません。範囲外の場合は、デーモンを停止してから再起動します。ドメインでこのエラーが引き続き表示される場合、またメモリーリークの兆候が見られる場合は、エラーに関する情報をできる限り収集し、購入先にお問い合わせください。

表 2-6 DR のドメインシステム調査エラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
walk_dir: dirlist buffer overflow.	DR デーモンが /dev および /devices ディレクトリの探索中に遭遇したディレクトリの数が多すぎたため、バッファオーバーフローが発生しました。このメッセージが表示された場合は、再帰的シンボリックリンクに対する検出機能または保護機能は無効になります。	/dev および /devices ディレクトリをチェックして、再帰的シンボリックリンクを検索します。検出されたすべての再帰的シンボリックリンクを削除します。
walk_dir: tpath buffer overflow. target_path, device_name	DR デーモンは、target_path に別のディレクトリを追加できませんでした。デーモンは /dev および /devices ディレクトリを探索してデバイス名のリンクを検出し、ターゲットパスに追加します。デーモンがこの制限に遭遇すると、バッファオーバーフローのためにこれ以上ディレクトリを調査できなくなります。デーモンが検索を中止すると、いくつかのデバイスはドメインデバイスツリーのビュー (DR デーモンおよび SSP) に表示されません。このエラーの発生により、AP デバイスの不正な自動スイッチ機能が動作する場合もあります。	ターゲットパスに追加されないデバイスの場合は、構成を手動で解除し、ドメイン内の他のボードに切り替える必要があります。また、デバイスをオープンしているデーモンを停止する必要もあります。
WARNING: cannot check for cvc/ssp interface.	アクティブな各ネットワークデバイスのテストに必要な情報を取得できません。ネットワークデバイスの検査の際、アクティブな各ネットワークデバイスが、ドメインの SSP ネットワークインタフェースに対応するかどうかの判定テストが行われます。SSP ネットワークインタフェースとの対応が特定できない場合は、DR デーモンは切断可能性テストを通過させません。切断操作中にネットワークが SSP ネットワークインタフェースを失うと、ドメイン内での DR 操作、および netcon(1M) セッションは無効になります。	問題があると考えられるインタフェースから、他のボード上の冗長なネットワーク接続に切り替えます。このエラーから回復するために、ドメインの再起動が必要な場合もあります。

表 2-6 DR のドメインシステム調査エラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
WARNING: Cannot check for primary interface	アクティブな各ネットワークデバイスのテストに必要な情報を取得できません。ネットワークデバイスの検査の際、アクティブな各ネットワークデバイスが、ドメイン用の主ネットワークインタフェースであるかどうかの判定テストが行われます。どのアクティブネットワークデバイスがドメインの主ネットワークインタフェースであるかを判定できない場合は、DR デーモンは切断可能性テストを通過させません。	主ネットワークインタフェースを担当するボードを識別し、そのボードをドメインに再接続します。または、インタフェースを、ドメイン内の他のボード上の冗長なネットワーク接続に切り替えます。このエラーから回復するために、ドメインの再起動が必要な場合もあります。
WARNING: Cannot determine if <i>interface_name_instance</i> is cvc/ssp interface. SIOCGIFNETMASK errno= <i>errno_value</i>	アクティブなネットワークインタフェースが SSP 接続であるかどうかを判定するテストに必要な情報を取得できません。ネットワークデバイスの検査の際、アクティブな各ネットワークデバイスが、ドメインの SSP 接続であるかどうかの判定テストが行われます。どのアクティブネットワークデバイスがドメインの SSP 接続であるかを判定できない場合は、DR デーモンは切断可能性テストを通過させません。DR Detach 操作中にネットワークが SSP 接続を失うと、ドメイン内での DR 操作、および netcon(1M) セッションは無効になります。	ネットワークインタフェース (<i>interface_name</i>) を別のボードに切り替えます。このエラーを訂正できない場合は、ドメインを再起動してください。
WARNING: cannot stat <i>device_name</i> errno= <i>errno_value</i>	stat(2) システムコールが、システムデバイスツリー内のデバイス用の /dev エントリーポイントにアクセスできません。	stat(2) のマニュアルページおよび <i>errno_value</i> を参照して、ファイル <i>device_name</i> へアクセスできない原因を調べます。
DR Error: Bad page size from sysconf . . . <i>errno_description</i>	sysconf(3c) システムコールが、不正なシステムページサイズの値を返しました。これは、システムコールが壊れているか、必要な機能を備えていないかのいずれかであることを意味します。また、このエラーには、不正なメモリーサイズのレポートにより、メモリー情報の照会や切断可能性テストが失敗する理由も説明します。	sysconf(3c) のマニュアルページおよび <i>errno_value</i> を参照して、エラーの原因を突き止めます。

表 2-6 DR のドメインシステム調査エラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
DR Error: device tree not built.	libdevinfo API が、システムボード用デバイスツリーの構築に失敗しました。このエラーの詳細情報は、エラーメッセージを参照してください。	ドメインに含まれるのが適切なバージョンの libdevinfo であること、また DR デーモンのライブラリ、ドメインのオペレーティング環境、または DR デーモン自体の間にバージョンの不整合が存在しないことも確認します。原因が不明な場合は、購入先にお問い合わせください。
DR Error: dr_get_partn_cpus: cannot get cpu's partition . . . <i>errno_description</i>	DR デーモンは、pset_assign(2) 関数の実行を試みましたが、関数は失敗しました。DR デーモンは、この関数を使ってプロセッサセットおよびパーティション情報を取得し、CPU Configuration ウィンドウに送信します。	pset_assign(2) のマニュアルページおよび <i>errno_description</i> を参照して、エラーの原因を識別し、訂正します。
DR Error: dr_get_partn_cpus: failed to get cpu partition info . . . <i>errno_description</i>	DR デーモンは、pset_info(2) 関数の実行を試みましたが、関数は失敗しました。DR デーモンは、この関数を使ってプロセッサセットおよびパーティション情報を取得し、CPU Configuration ウィンドウに送信します。	pset_info(2) のマニュアルページおよび <i>errno_description</i> を参照して、エラーの原因を識別し、訂正します。
DR Error: dr_page_to_kb: page size smaller than a KB	数値演算エラーが発生したか、メモリー計算で不正なメモリー値が使用されました。	ハードウェアに障害のある可能性があるため、購入先にご連絡ください。
DR Error: get_board_config: invalid board state	ボードの有効性に影響する通信プロトコル違反が発生しました。SSP に関しては、ボードはドメインの一部です。ただし、DR ドライバおよびデーモンに関しては、ボードはドメインの一部ではありません。	DR アプリケーションを停止してから起動し、操作を再実行します。エラーが引き続き発生する場合は、kill(1M) コマンドを使って DR デーモンを停止してから起動し、DR 操作を再実行します。

表 2-6 DR のドメインシステム調査エラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
DR Error: get_board_config: invalid flag	DR デーモンによるボード構成の確認時に、SSP が無効または未サポートのフラグを DR デーモンに渡しました。	SSP と DR デーモンで、バージョン番号が一致することを確認します。また、ps(1) コマンドを使ってデーモンのサイズも確認します。通常、デーモンは約 300 ~ 400 KB のメモリーを使用します。デーモンのサイズがこの値よりもはるかに大きい場合は、デーモン内で内部エラーが発生した可能性があります。このエラーから回復するために、DR デーモンの停止および再起動が必要な場合があります。
DR Error: libdevinfo failed.	libdevinfo API のオープンに使用する初期ルーチンが失敗したため、DR デーモンはボード用のデバイスツリーを調査できませんでした。libdevinfo は、ボードの dev-info ノードツリーを、DR デーモンのドメインデバイス調査およびその使用状況の一部として構築します。このツリーは、ボード I/O デバイスの切断可能性をテストする際、AP および DR 操作により必要とされます。このツリーはまた、ユーザーに対し、どのシステムボードにどのデバイスが存在するかを知らせる目的でも使用されます。	ドメインに含まれるのが適切なバージョンの libdevinfo であること、また DR デーモンのライブラリ、ドメインのオペレーティング環境、または DR デーモン自体の間にバージョンの不整合が存在しないことも確認します。原因が不明な場合は、購入先にお問い合わせください。
get_cpu_info: cpu state info is incomplete [non-fatal].	DR デーモンが、CPU の状態情報 (オンラインまたはオフライン) を収集できませんでした。このため、CPU Configuration ウィンドウ内の各 CPU に関する情報は、正確ではありません。	なし

表 2-6 DR のドメインシステム調査エラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
DR Error: build_rpc_info: bad slot number	デバイスツリーは構築されましたが正しくありません。いくつかの関数は、/dev と /devices ディレクトリを検索し、かつ libdevinfo API を使用して、システムボードのデバイスツリーを作成します。構築後、ツリーは build_rpc_info() 関数に渡されます。この関数は、DR デーモンのデバイスツリーを RPC から復帰可能な構造に変換する際、ツリーを検証します。	ps(1) コマンドを使って、DR デーモンのサイズをチェックします。通常、デーモンは 300 ~ 400 KB のメモリーを使用します。デーモンのサイズがこの値よりもはるかに大きい場合は、デーモン内で内部エラーが発生した可能性があります。このエラーから回復するために、DR デーモンの停止および再起動が必要な場合があります。エラーに関する情報をできる限り収集し、購入先にお問い合わせください。
DR Error: build_rpc_info: device address format error	デバイスツリーは構築されましたが正しくありません。いくつかの関数は、/dev と /devices ディレクトリを検索し、かつ libdevinfo API を使用して、システムボードのデバイスツリーを作成します。構築後、ツリーは build_rpc_info() 関数に渡されます。この関数は、DR デーモンのデバイスツリーを RPC から復帰可能な構造に変換する際、ツリーを検証します。	ps(1) コマンドを使って、DR デーモンのサイズをチェックします。通常、デーモンは 300 ~ 400 KB のメモリーを使用します。デーモンのサイズがこの値よりもはるかに大きい場合は、デーモン内で内部エラーが発生した可能性があります。このエラーから回復するために、DR デーモンの停止および再起動が必要な場合があります。エラーに関する情報をできる限り収集し、購入先にお問い合わせください。
DR Error: build_rpc_info: I/O bus node address format error	デバイスツリーは構築されましたが正しくありません。いくつかの関数は、/dev と /devices ディレクトリを検索し、かつ libdevinfo API を使用して、システムボードのデバイスツリーを作成します。構築後、ツリーは build_rpc_info() 関数に渡されます。この関数は、DR デーモンのデバイスツリーを RPC から復帰可能な構造に変換する際、ツリーを検証します。	ps(1) コマンドを使って、DR デーモンのサイズをチェックします。通常、デーモンは 300 ~ 400 KB のメモリーを使用します。デーモンのサイズがこの値よりもはるかに大きい場合は、デーモン内で内部エラーが発生した可能性があります。このエラーから回復するために、DR デーモンの停止および再起動が必要な場合があります。エラーに関する情報をできる限り収集し、購入先にお問い合わせください。

表 2-6 DR のドメインシステム調査エラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
DR Error: build_rpc_info: psycho number out of range	デバイスツリーは構築されましたが正しくありません。いくつかの関数は、/dev と /devices ディレクトリを検索し、かつ libdevinfo API を使用して、システムボードのデバイスツリーを作成します。構築後、ツリーは build_rpc_info() 関数に渡されます。この関数は、DR デーモンのデバイスツリーを RPC から復帰可能な構造に変換する際、ツリーを検証します。	ps(1) コマンドを使って、DR デーモンのサイズをチェックします。通常、デーモンは 300 ~ 400 KB のメモリーを使用します。デーモンのサイズがこの値よりもはるかに大きい場合は、デーモン内で内部エラーが発生した可能性があります。このエラーから回復するために、DR デーモンの停止および再起動が必要な場合があります。エラーに関する情報をできる限り収集し、購入先にお問い合わせください。
DR Error: build_rpc_info: sysio number out of range	デバイスツリーは構築されましたが正しくありません。いくつかの関数は、/dev と /devices ディレクトリを検索し、かつ libdevinfo API を使用して、システムボードのデバイスツリーを作成します。構築後、ツリーは build_rpc_info() 関数に渡されます。この関数は、DR デーモンのデバイスツリーを RPC から復帰可能な構造に変換する際、ツリーを検証します。	ps(1) コマンドを使って、DR デーモンのサイズをチェックします。通常、デーモンは 300 ~ 400 KB のメモリーを使用します。デーモンのサイズがこの値よりもはるかに大きい場合は、デーモン内で内部エラーが発生した可能性があります。このエラーから回復するために、DR デーモンの停止および再起動が必要な場合があります。エラーに関する情報をできる限り収集し、購入先にお問い合わせください。

OpenBoot PROM エラーメッセージ

OpenBoot™ PROM (OBP) エラーメッセージの一覧を以下に示します。これらのメッセージは、システムログと SSP アプリケーションのいずれかまたは両方に送信されます。

表 2-7 OBP エラーメッセージ

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
cpu unit without upa-portid [non-fatal]	このメッセージは、OBP 構造内に、破壊された値または不正な値が発見されたことを示しています。これは、 OBP Configuration ウィンドウ内の情報が正確ではないことを意味します。	これは重大なエラーではありません。このエラーが続く場合は、ドメインを再起動してください。再起動後もエラーが表示される場合は、エラーに関する情報をできる限り収集し、購入先にお問い合わせください。
OBP_info: bad child units [non-fatal]	このメッセージは、OBP 構造内に、破壊された値または不正な値が発見されたことを示しています。これは、 OBP Configuration ウィンドウ内の情報が正確ではないことを意味します。	これは重大なエラーではありません。このエラーが続く場合は、ドメインを再起動してください。再起動後もエラーが表示される場合は、エラーに関する情報をできる限り収集し、購入先にお問い合わせください。
obp_info: bad slot number [non-fatal]	このメッセージは、OBP 構造内に、破壊された値または不正な値が発見されたことを示しています。これは、 OBP Configuration ウィンドウ内の情報が正確ではないことを意味します。	これは重大なエラーではありません。このエラーが続く場合は、ドメインを再起動してください。再起動後もエラーが表示される場合は、エラーに関する情報をできる限り収集し、購入先にお問い合わせください。
obp_info: missing sbus name [non-fatal]	このメッセージは、OBP 構造内に、破壊された値または不正な値が発見されたことを示しています。これは、 OBP Configuration ウィンドウ内の情報が正確ではないことを意味します。	これは重大なエラーではありません。このエラーが続く場合は、ドメインを再起動してください。再起動後もエラーが表示される場合は、エラーに関する情報をできる限り収集し、購入先にお問い合わせください。

表 2-7 OBP エラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
obp_info: missing slot number [non-fatal]	このメッセージは、 OBP 構造内に、破壊された値または不正な値が発見されたことを示しています。これは、 OBP Configuration ウィンドウ内の情報が正確ではないことを意味します。	これは重大なエラーではありません。このエラーが続く場合は、ドメインを再起動してください。再起動後もエラーが表示される場合は、エラーに関する情報をできる限り収集し、購入先にお問い合わせください。
sbus node without upa-portid [non-fatal]	このメッセージは、 OBP 構造内に、破壊された値または不正な値が発見されたことを示しています。これは、 OBP Configuration ウィンドウ内の情報が正確ではないことを意味します。	これは重大なエラーではありません。このエラーが続く場合は、ドメインを再起動してください。再起動後もエラーが表示される場合は、エラーに関する情報をできる限り収集し、購入先にお問い合わせください。
sysio_num out of range [non-fatal]	このメッセージは、 OBP 構造内に、破壊された値または不正な値が発見されたことを示しています。これは、 OBP Configuration ウィンドウ内の情報が正確ではないことを意味します。	これは重大なエラーではありません。このエラーが続く場合は、ドメインを再起動してください。再起動後もエラーが表示される場合は、エラーに関する情報をできる限り収集し、購入先にお問い合わせください。
DR Error: cannot open /dev/openprom. . . <i>errno_description</i>	DR デーモンは、ドメインの OBP 情報のエン트리ポイントをオープンできませんでした。これは、 OBP Configuration ウィンドウに何も情報が表示されないことを意味します。これは重大なエラーではありません。	open(2) のマニュアルページおよび <i>errno_description</i> を参照して、このエラーの原因を特定します。 DR デーモンが資源の制限を検出した可能性があります。その場合は、デーモンを停止してから再起動します。また、 DR デーモンのサイズもチェックします。 DR デーモンは 300 ~ 400 KB のメモリーを使用します。デーモンのサイズがこの範囲内でない場合は、デーモンを停止してから再起動してください。ドメインでこのエラーが引き続き表示される場合、またメモリーリークの兆候が見られる場合は、エラーに関する情報をできる限り収集し、購入先にお問い合わせください。

表 2-7 OBP エラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
DR Error: close error on /dev/openprom	DR デーモンが、OBP ドライバのエントリポイントのクローズに失敗しました。	このエラーメッセージの前に表示されたエラーメッセージを使って、エラーの原因を特定します。可能ならエラーを訂正します。
DR Error: dev/openprom busy. Cannot open.	ドメイン OBP 情報のエントリポイントが使用中です。これは、OBP Configuration ウィンドウに何も情報が表示されないことを意味します。これは、致命的なエラーではありません。	操作を再実行します。ps(1M) コマンドを使って、エントリポイントをオープンしているプロセスをチェックします。エントリポイントをオープンしているプロセスをすべて停止します。
DR Error: get_obp_board_config: invalid board state	SSP アプリケーションがボードの OBP 情報を照会しようとした際、通信プロトコルがボードの有効性に問題があることを報告しました。SSP に関しては、ボードはドメインの一部であるため、SSP はボード資源を空にしようとします。ただし、DR ドライバおよびデーモンにとっては、ボードはドメインの一部ではありません。	なし
DR Error: OBP config: too many CPUs	DR デーモンが検出した、OBP 構造内のシステムボードに属する CPU の数が多すぎます。OBP に関しては、ボードが保持する CPU の数が限界 (たとえば、5 以上) を上回っています。	OBP が適切に動作していることを確認します。適切に動作していない場合は、ドメインを再起動してください。
DR Error: OPROMCHILD. . . <i>errno_description</i>	OBP ドライバのエントリポイントで実行された ioctl(), 特に、デバイスツリー内の子 OBP ノードの探索に使用される ioctl() が失敗しました。これは、OBP Configuration ウィンドウ内での情報表示が完了しないことを意味します。	このエラーメッセージとともに表示される <i>errno_value</i> または <i>errno_description</i> を使って、エラーの原因を特定します。可能ならエラーを訂正します。

表 2-7 OBP エラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
DR Error: OPROMGETPROP. . . <i>errno_description</i>	OBP ドライバのエントリポイントで実行された <code>ioctl()</code> 、特に、OBP プロパティの取得に使用される <code>ioctl()</code> が失敗しました。これは、OBP Configuration ウィンドウ内の情報表示が完了しないことを意味します。	このエラーメッセージとともに表示される <code>ioctl(2)</code> マニュアルページと <i>errno_description</i> を使って、エラーの原因を特定します。可能ならエラーを訂正します。
DR Error: OPROMNEXT. . . <i>errno_description</i>	OBP ドライバのエントリポイントで実行された <code>ioctlr()</code> 、特に、デバイスツリー内の隣の OBP ノードの探索に使用される <code>ioctlr()</code> が失敗しました。これは、OBP Configuration ウィンドウ内の情報表示が完了しないことを意味します。	このエラーメッセージとともに表示される <code>ioctl(2)</code> マニュアルページと <i>errno_description</i> を使って、エラーの原因を特定します。可能ならエラーを訂正します。
DR Error: System architecture does not support this option of this command.	DR デーモンによるドメインの OBP ツリー内の探索中に、未サポートのオプションが DR デーモンに渡されました。これは、OBP Configuration ウィンドウ内の情報の一部が不正確になることを意味します。これは重大なエラーではありません。	なし

安全でないデバイス照会の障害

安全でないデバイス照会の障害エラーメッセージの一覧を以下に示します。これらのメッセージは、システムログと SSP アプリケーションのいずれかまたは両方に送信されます。

表 2-8 安全でないデバイス照会エラーメッセージ

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
<code>unsafe_devices: couldn't determine name of unsafe device <i>major_number</i></code>	ドライバ名とメジャー番号を結び付けるために DR デーモンが使用するメカニズムに障害が発生したため、名前を検出できなくなりました。この障害が発生した場合は、DR デーモンはデバイス用の文字列を作成し、それを“(unknown, <i>major_number</i>)”として指定します。	このメッセージは、ユーザーに対し、DR デーモンがあるデバイスの名前を検出できなかったことを通知します。ただし、これは訂正可能なエラーではありません。デーモンはメジャー番号を使ってドライバを識別できます。
<code>WARNING: board <i>board_number</i> not checked for unsafe devices.</code>	DR デーモンが、安全でないデバイスを検出するためにシステムボードを検査している間に障害に遭遇し、あるシステムボード (<i>board_number</i>) を検査できませんでした。このエラーメッセージは、より重大な問題を内包している場合があります。	DR デーモンを停止してから再起動して、このエラーからドメインを復旧する必要がある場合があります。DR デーモンのサイズをチェックします。DR デーモンのサイズは 300 ~ 400 KB の範囲内であるはずです。DR デーモンのサイズがこの範囲内でない場合は、DR デーモンを停止してから再起動してください。それでも、このエラーが表示される場合は、この問題に関する情報をシステムログからできる限り収集し、購入先にお問い合わせください。

表 2-8 安全でないデバイス照会エラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
DR Error: unsafe_devices: libdevinfo failed.	DR デーモンは、libdevinfo API を使用できなかったため、安全でないメジャーデバイス名を識別できませんでした。安全でないメジャーデバイスすべての名前に対応したデバイスツリーを検索するために、この API を使用する必要があります。	ドメインが適切なバージョンの libdevinfo API を保持していること、およびすべての DR デーモンのライブラリ、ドメインのオペレーティング環境、またはデーモン自体の間でバージョンの不整合が存在しないことを確認します。このエラーの原因を特定できない場合は、この問題に関する情報をシステムログからできる限り収集し、購入先にお問い合わせください。
DR Error: create_ctlr_array: count mismatch [internal error]	AP コントローラの存在に関する通信プロトコル違反が報告されました。AP ライブラリアンから見ると、ドメインはある数の AP コントローラを保持しています。一方、DR デーモンから見ると、ドメインは異なる数のコントローラを保持しています。	ドメイン内の AP コントローラの正確な数を把握し、エラーを訂正します。また、DR デーモンのサイズをチェックします。DR デーモンのサイズは 300 ~ 400 KB の範囲内であるはずですが、DR デーモンのサイズがこの範囲内にならない場合は、DR デーモンを停止してから再起動してください。

AP 関連のエラーメッセージ

Alternate Pathing 関連のエラーメッセージの一覧を以下に示します。これらのメッセージは、システムログと SSP アプリケーションのいずれかまたは両方に送信されます。

表 2-9 AP 関連のエラーメッセージ

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
<code>add_net_ap_info: multiple AP aliases ignored</code>	AP デバイスが複数の AP エイリアスを保持しています。1 つのエイリアスだけが使用されます。他のエイリアスは無視されます。これはエラーではありません。	このエラーが引き続き表示される場合は、AP エイリアスを 1 つだけ残り、残りをすべて削除してください。
<code>AP daemon call failed: error_message *OR* error = error_number</code>	AP ライブラリアンの通知と照会のいずれかまたは両方が失敗しました。	エラーメッセージに説明文が含まれる場合はそこから障害の詳細を調べ、エラー番号を利用できる場合はそれを調べます。また、 <code>ap_daemon(1M)</code> のマニュアルページを参照して、このエラーの詳細を調べます。
<code>AP daemon comm init failed: error_message *OR* error = error_number</code>	DR デーモンが AP ライブラリアンとの通信チャネルを確立中に障害が発生しました。	エラーメッセージに説明文が含まれる場合はそこから障害の詳細を調べ、エラー番号を利用できる場合はそれを調べます。また、 <code>ap_daemon(1M)</code> のマニュアルページを参照して、このエラーの詳細を調べます。
<code>AP daemon query failed: error_message *OR* error = error_number</code>	DR デーモンが特定の I/O コントローラの使用状況について AP ライブラリアンに照会を実行できませんでした。	エラーメッセージに説明文が含まれる場合はそこから障害の詳細を調べ、エラー番号を利用できる場合はそれを調べます。また、 <code>ap_daemon(1M)</code> のマニュアルページを参照して、このエラーの詳細を調べます。
<code>AP daemon query failed: length mismatch</code>	特定の I/O コントローラの使用状況に関して DR デーモンが AP ライブラリアンに照会を実行しましたが、不正な応答が返されました。	エラーメッセージに説明文が含まれる場合はそこから障害の詳細を調べ、エラー番号を利用できる場合はそれを調べます。また、 <code>ap_daemon(1M)</code> のマニュアルページを参照して、このエラーの詳細を調べます。

表 2-9 AP 関連のエラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	推定される原因	対処方法
Cannot find physical device for <i>AP_alias</i> このエラーメッセージは、システムログにだけ送信されます。	AP エイリアスに対応する物理デバイス名を検出できませんでした。デバイス名に関して AP が混乱しているか、 <i>/dev</i> および <i>/devices</i> ディレクトリが不完全な状態にあります。	AP が適正に動作することを確認します。すべてのデバイスエントリが <i>/dev</i> および <i>/devices</i> ディレクトリ内に存在するかどうかをチェックします。デバイスエントリが存在しない場合は、必要なエントリを適切なディレクトリに追加します。
create_ap_net_leaf: interface instance not found	DR デーモンは、AP メタネットワークインタフェースを、それらが表す物理デバイスと一致させようとしています。このエラーは、DR デーモンがネットワークインタフェースを、対応する、このボード用の物理デバイスと一致させることができなかったことを意味します。	DR 操作中および操作後にデバイスを利用する際、異常な動作が見られる場合は、AP が適正に動作することを確認します。エラーが引き続き発生する場合は、この問題に関する情報をシステムログからできる限り収集し、購入先にお問い合わせください。
dr_ap_notify: unknown state <i>state_number</i>	DR デーモンが、不正な値で内部関数を呼び出しました。ただし、このエラーが発生する場合は、より重大な問題が内包されている可能性があります。	この問題に関する情報をシステムログからできる限り収集し、購入先にお問い合わせください。
dr_daemon operating in NO AP interaction mode	AP ソフトウェアが機能していないか、インストールされていません。このメッセージは、DR デーモンから AP に対して接続および切断操作が通知されないことを意味します。	AP をインストールしていない場合は、このエラーを無視してください。インストール済みの場合は、適切にインストールされていること、および AP ソフトウェアのバージョンがドメイン内で実行中の DR デーモンのバージョンと互換性があることを確認します。
init_ap_rpc: Unable to get hostname	uname(2) システムコールが無効なホスト名を返しました。その結果、DR デーモンは AP ライブラリアンへの接続を確立できませんでした。	なし

